

NPO理事 萩原 一夫 70  
(横浜市泉区)

## 説得力増す 日独連帯

十九日の本紙5面「時代を讀む」(宇野重規教授)を讀み、日本のあるべき方向について感銘を受けた。

最近来日したドイツのマース外相は、アジアにおける最初の訪問国として日本を選んだことに触れ、「米国第一のトランプ大統領、地政学的バランスを自国に有利に変えようとする中国との間にあって、日独こそが国際的自由貿易体制を守るルールを担うべきである」と主張されたとのこと。  
メルケル首相も六月、「距離は

### ミラー

離れているが、日本とドイツは親密なパートナー」「ロシアを挟んで西にドイツ、東に日本」と親近感をアピールした。

トランプ政権の誕生以来、欧米の信頼関係の崩壊があり、保護主義がまかり通る中で、日欧の経済連携協定の調印を背景に、日本はドイツと並ぶものづくり先進国として、そして自由貿易の守り手として、今、ドイツ側から期待されている。戦前の日独接近は世界秩序混乱の原因となったが、現在の日独接近は自由民主主義を維持す

るためにこそある」との宇野教授の指摘は説得力があった。

今、世界を見渡すとポピュリズムがまん延し、独裁政治が洋の東西を問わず勢いを増している。米国とトルコの指導者同士の対立が大きく国民生活に悪影響を与えている現状を見ても、独裁政治を防ぎ健全な民主主義国として連帯を強化することは大いに重要性を増していると思う。

問題は、教授も指摘している通り、日本がその期待に応えられるかどうかだ。対米追従思考だけではそのチャンス逃す恐れもあるのではないか。